

身近な言葉と結びつけて

今日は三年生をイメージして書く番ですね。『論語』の中の、孔子の具体的な言葉について前回書きました。教科書三十二ページから三ページにわたって四つの名言が載っています。これは授業で勉強してくださいね。どの言葉も「どきっ」としますよ。先日、二年生対象に、「し点」「し点」について書きました。三年生は「し点」と「一、二点」を昨年度学習しましたよね。覚えていきますか。えっ、覚えていない？でも、それが普通です。引け目を感じる必要なんて全くないからね。今日はそんなあなたに、「なるほど！」と思ってもらえたら最高です。

「授業」って何だろう？それは「業（この字には、学問という意味があります）を授ける」こと。ですよ。だから「授^{ケル}業^ヲ」となります。「読書」は「書を読む」だから「読^ム書^ヲ」、「配膳」は「膳を配る」だから「配^ル膳^ヲ」、こう覚えれば、し点の役割を忘れないですよ。

私たちの使っている言葉には、このように「し点」を入れて読むと意味がわかるものが結構あります。積極的にみつけてみてくださいね。

次に、「不可能」ってどういうこと？「できないこと」だよね。私たちは三文字の熟語としてこの言葉覚えていくけど、実は、次のように「一、二点」を打つことができます。

「不^ズ二可能^{ナラ}」

これを読むと「可能ならず」、つまり「できないこと」です。「二」は必ず「一」よりも上にあります。「二」の右上にある文字は「一」が付いている字を読んだから読みます。慌てないで。したがって、「不」は後回し。すぐ下にある「可」は左下に何も付いていないから、これを最初に読みます。次は「能」。この左下に「一」が付いているので、読んでもいいけど読んだら「二」に返って読みます。

このように、私たちの身近な言葉と結びつけて覚え、忘れないかもね。丸暗記は忘れやすいよ。